

カナダ・ネイバーフッドハウスにおける世代間交流の研究
 - フロッグホロウネイバーフッドハウスにおける世代間交流プロジェクトの事例から -

A Study on the Intergeneration Project of
 a Neighborhood House in Canada

:Case of the Intergeneration Project at the "Frog Hollow Neighborhood House"

岡野 聡子
 Satoko Okano

Keyword: Canada, Settlement, Neighbourhood House, Intergenerational Project, Small bases
 キーワード：カナダ、セツルメント、ネイバーフッドハウス、世代間交流プロジェクト、小さな拠点

Abstract: This paper aims to reveal the intergenerational project in 2011 to 2014 that was addressed in Frog Hollow Neighbourhood House in Canada. I carried out a field survey and interview survey on 27/Aug/2014-4/Sep/2014, 10/Aug/2015-20/Aug/2015. Frog Hollow Neighbourhood House is a volunteer-driven, community-service agency. Their mission is to make their neighbourhood a better place to live and goal is to enable people to enhance their lives and strengthen their community. They have 30 over community services and programs, lots of people beyond the generation will encounter in this place. With direct access to community members through these different services and programs, they saw patterns emerging that highlighted the parallel experiences of youth and seniors. Both groups often expressed feelings of being overlooked, underrepresented and disconnected from a vibrant civic life. They worked on generating citizenship trained a diverse group of citizenship mentors, 18 youth and 6 seniors, who led the development of 9 civic engagement project.

I. はじめに

本研究は、カナダのフロッグホロウネイバーフッドハウスで2011年4月から2014年3月までに取り組まれた世代間交流プロジェクトの実態を明らかにすることを目的としている。

筆者は、2004年6月から1年半ほどカナダBC州バンクーバー市に滞在をしていた際、ネイバーフッドハウスの利用者となり、その後、ボランティアスタッフとしても活動を行うようになった。¹セツルメント運動を源流に持つネイバーフッドハウスは、カナダに来た新移民者向けの生活支援だけでなく、地域住民全ての生活向上を目的とした

¹カナダのBC州バンクーバー市には、バンクーバー市ネイバーフッドハウス協会に所属している13ヶ所のネイバーフッドハウスがある。(2015年7月30日の時点) 筆者が利用およびボランティアスタッフとして活動を行っていたのは、その中のゴードンネイバーフッドハウスである。

サービスやプログラムを展開すると同時に、多世代が集い出会える場作り、さらに地域・国への帰属感を醸成する拠点としての役割を担っている。そこで展開されるサービスやプログラムは、子育て支援から学童保育、就労支援、シニアサービス等、約30種類に及び、施設の利用者や現地の大学生、一時滞在者の留学生等がボランティアスタッフとなって提供している。筆者は、日本に帰国後、2007年頃からネイバーフッドハウスのような取り組みをしているボランティア団体やNPOを日本国内にあるのか調べはじめたが、ネイバーフッドハウスの特徴である①全ての人を受け入れ、②人々の日常生活を包括的に支援し、③地域住民の拠点となる施設といった特徴²を併せ持つ施設は管見するあたり見当たらなかった。

我が国においては、近年では「世代間交流」や「小さな拠点」という言葉が脚光を浴び、幼老統合施設の運営をはじめ、街づくりの一環としてのコミュニティカフェの運営、学校教育機関における世代間交流プログラムの実施等、世代間交流を意識した取り組みが数多くなされてきた。こうした取り組みは、地域社会の抱える諸問題の解決に向けて、互恵的な福利を追求するための1つの手段として期待が寄せられている。しかしながら、これらの取り組みを概観すると、以下の3点の課題を取り上げることができると思われる。1点目は、世代間交流の原点が子どもと高齢者の交流を軸に考えられており、人間のライフサイクル全体を見通した多世代に渡る交流の在り方についての取り組みや研究は数が少ないと思われること、2点目は、日常生活における世代間交流を促す取り組みよりもイベント的な取り組みがほとんどであるということ、3点目は、世代間交流や小さな拠点作りといったものが人々の生活向上や地域活性化よりも福祉拠点作りに比重が置かれているように感じられることである。

この3点の課題に対する一つの提案として、セツルメント運動を源流としたカナダのネイバーフッドハウスの運営方法やそでの活動を基盤とした世代間交流の取り組みを考察し、現在の日本の地域コミュニティが抱える諸問題に新たな視点を導入することができるのではないかと考え、本研究を構想するに至った。

II. 本研究に関連する国内外の研究動向および位置づけ

1. 世代間交流について

国内外における少子高齢化の急速な進展と産業構造の変化は、単独世帯化や核家族化に代表される世代間の分離を促し、その結果、子どもの人間関係の狭小化、子育て技術の世代間伝達の困難さ、高齢者の孤立など、さまざまな社会的問題の要因を生み出している。

我が国における世代間交流の研究は、学生セツルメント運動の世代間の文化交流（西内潔 1953：91）に始まる。その後、1980年頃からは、女性の社会進出に伴って、子育てや介護の課題が散見されるようになり、「福祉社会の構築」をテーマとして、子どもや高齢者を対象とした世代間交流の研究が主流となった。1999年には、保育園・幼稚園など子どもの施設と高齢者福祉施設を合築した幼老統合ケア施設も全国の21.9%の市町村で設置されたが、合築・併設施設における世代間交流活動は、空間的統合が行われているにもかかわらず、その実施率は45.9%に留まっている。これは、世代間交流活動を促すコーディネーターの不足（土永・岡崎 2005：30、中井 2008：4-5）や世代間交流が子どもの保育や高齢者の人間的な発達にとって重要であるという理念から始まったものではなく、単に財政上の課題といった便宜的理由から施設の統合が実施された結果である（草野 2006：10）との指摘がなされている。また、現在では、2010年に世代間交流学会を創設した草野氏を先駆けとして、世代間交流の理論研究が始まったばかりである。

²ネイバーフッドハウスの変遷や特徴については、岡野聡子（2012）「非営利団体における社会サービスの提供に関する一考察ーカナダのバンクーバー市におけるゴードンネイバーフッドハウスの取り組みー」を参考にしていきたい。

一方、国外の研究では、ピッツバーグ大学のNewman (1997) が、世代間の隔離が両世代（子ども（若年者）と高齢者）にとって否定的な結果をもたらすということから、世代間を結ぶ意図的な介入とその必要性を提唱し、「異世代の人々が相互に協力し合って働き、助け合うこと、高齢者が習得した知恵や英知、ものの考え方や解釈を若い世代に言い伝えること」と世代間交流を定義したことで国際的に認知され始めた。その後、1999年にオランダで国際世代間交流協会 (ICIP) が創設され、イギリス、ドイツ、スペインなどのヨーロッパ諸国、アメリカ、オーストラリアの国々が加入するに至っている。カナダでは、2008年に教育関係者、医療従事者、高齢者、地域社会、若者、子育て支援を要する養育者らによって、I2I Intergenerational societyを結成し、人間のライフサイクルや生涯発達の見点から見た多世代間交流という概念が一般化されつつある。

2. ネイバーフッドハウスについて

本研究で取り扱うネイバーフッドハウスとは、イギリスのトインビーホール (1884) に端を発したセトルメント運動が原点となる。カナダの場合、ジェーン・アダムス氏が創設したハルハウス (1889) の影響が大きく、1880年代から1970年代に渡って、カナダ全土に100ヶ所以上が創設されたと言われている。ネイバーフッドハウスとは、セトルメントハウスやコミュニティハウスとも呼ばれている地縁型コミュニティである。一般的にネイバーフッドハウスが対象としている区域の決め方には、ルールや定義などがあるわけではなく、道路や線路、湖などの地理的条件や人工的境界によって定められる場合が多い。また、サービスやプログラム内容は、地域が持つ特性（地理的条件、産業、経済、人種、所得階層など）に応じて多様に展開されているが、対象者を限定しないという共通点を持っている。

カナダにおけるネイバーフッドハウスの先行研究では、M.C.Yan (2004) の *"Bridging the Fragmented Community: Revitalizing Settlement Houses in the Global Era"*、M.C.Yan, S.T.Lauer (2008) の *"Social Capital and Ethno-Cultural Diverse Immigrants: A Canadian Study on settlement House and Social Integration"*、S.T.Lauer, M.C.Yan (2010) の *"Voluntary Association Involvement and Immigrant Network Diversity"*、Cavers et al (2007) の *"How Strangers Become Neighbours: Construction Citizenship Through Neighbourhood Community Development"* や Sandercock (2003) の *"Cosmopolis II: Mongrel Cities in the 21st Century"* らの研究を取り上げることができる。彼らは、地域住民の基本的な生活ニーズを充足して調節し、地域における社会関係資本 (Putnam, 2000) の構築の在り方について注目した。また、M.C.Yanは、カナダに来た新移民者がネイバーフッドハウスでの出会いや活動を通して、カナダの生活文化にどのように馴染んでいくかといった研究や、日常生活を包括的に支援する社会サービスの提供の在り方に着目した研究を行っている。彼は、セトルメント運動を源流に持つネイバーフッドハウスが、育児支援や高齢者のケア、雇用支援といった社会サービスの内容およびその提供方法の策定、コミュニティビルディング、ソーシャルアクションといったコミュニティを基盤として展開する多様な活動機能を統合させ社会関係資本構築の場として評価している。さらに、施設の利用者がボランティアスタッフとなり、ボランティアスタッフがスタッフとなり、また、そのスタッフの親族・友人が利用者となるというサイクルが生まれてきており、地域に住む人々を巻き込み (Involvement) つつ、それが多世代にまたがっていることが新たな研究の見点として注目されている。

カナダのBC州バンクーバー市には、バンクーバー市ネイバーフッドハウス協会に加盟している13のネイバーフッドハウスと1つのキャンプ施設があり、年間の総利用者数は、10万人を超える。また、総計300を超えるサービスやプログラムを近隣住民に提供しており、登録ボランティアスタッフの総数は約8,000人 (2010) にのぼっている。現

在、BC州におけるネイバーフッドハウスは、20ヶ所以上が存在しているといわれている。

Ⅲ. 研究目的および調査対象の概要について

1. 研究目的

本研究では、2011年～2014年までにフロッグホロウネイバーフッドハウスにおいて実施された世代間交流プロジェクトの実態を、資料の分析やインタビュー調査結果から明らかにすることを目的としている。

2. 調査対象の概要

1) フロッグホロウネイバーフッドハウスの概要

フロッグホロウネイバーフッドハウスは、1968年に設立され、今年で47年目を迎える。この施設は、バンクーバー中心市街地からバスで20分ほど南下したイーストバンクーバー・ヘイスティングサンライズ地区³に位置し、これまで地域住民の生活支援および交流拠点作りに携わってきた。イーストバンクーバー地区は、労働者層の家族にとっては、より手頃な価格で住宅を買える土地として、多くの移民者の文化・生活様式が多様に混ざり合った生活空間を築いてきた。⁴

1968年当時、バンクーバーには、パシフィックコロシウムが建てられ、音楽家のジミー・ヘンドリクスを筆頭として、街中がにぎわいを見せていた。ロックジャズサウンドは、若者にとってみれば刺激的な音楽であったが、住宅街で静かに暮らす者にとっては騒音でしかなく、夜な夜な響き渡る音楽に対し、地域住民が市民グループを立ち上げ、この騒音問題に取りかかることになった。その中で、市民同士の連帯感が醸成され、騒音問題の解決だけでなく、日々の生活課題を軽減するための組織が作られていった。これが、フロッグホロウネイバーフッドハウスの萌芽期となる。

1977年、フロッグホロウネイバーフッドハウスは、バンクーバー市ネイバーフッドハウス協会に加盟し、保育所の設置や大人のための識字クラスの展開をはじめた。その後、家族支援を強化するために、ソーシャルワーカーを導入するなど、組織として確立されていった。1985年に、現在の場所（Renfrew 5th street）に施設を立て、人々の生活の重要な一部となる空間づくりを第一目標として、幼児教室、学童保育、パートタイム労働者を対象とした支援など、それぞれの家族のニーズに合わせる形でサービスやプログラムを拡充していった。また、カナダ連邦政府からの補助金も獲得し、法律相談や若者向けのサービス、高齢者のためのプログラムも次々と導入した。1994年、ゲイリー・ドビン氏のリーダーシップのもと、子どものためのコミュニティ・アクション・プログラム（CAPC）を設置し、それを通して、フルタイムの青年労働者向けの支援や短時間のデイケアサービス、ESLクラス、若者の雇用プログラム、その他の家族支援が多様に展開された。これらの多様な実践が、現在のサービス・プログラム展開の根幹となる。

高齢者は、このネイバーフッドハウスと長年付き合い、数十年の間にたくさんの自助グループを生み出し、持続的な活動を行ってきた。また、フロッグホロウネイバーフッドハウスは、若者向けのプログラムの評判も高い。

³ヘイスティングサンライズとは、バンクーバー市北東角に位置する場所である。19世紀半ばに、港湾都市としてニューウエストミンスター市やフレイザーリバーの上流の街を補完する形で建設された。

⁴香港返還時（1997）には、香港からバンクーバーへの移民者が急増し、またバンクーバーオリンピック（2010）で世界中から注目が集まり不動産投資が始まった結果、イーストバンクーバーも今では戸建て（3LDK+ベースメント2LDK）で1億程度する。現在は、とても家など買えるような状況ではない。（2015/8/12聞き取り調査から）

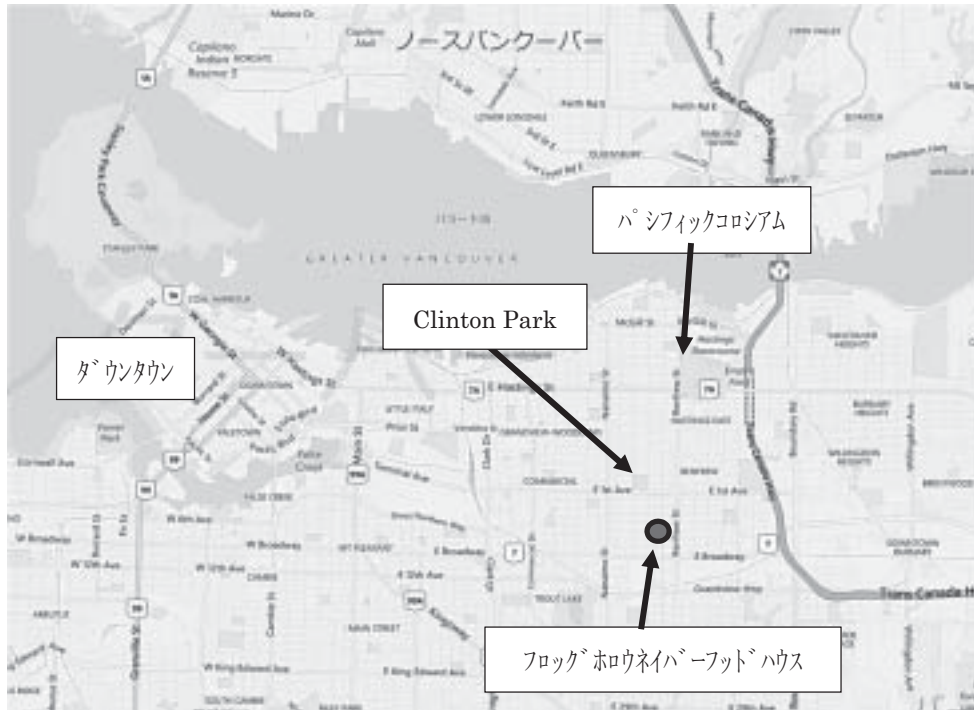


図1 バンクーバー市フロッグホロウネイバーフッドハウスの位置

<https://www.bing.com/maps/default.aspx?encType=1&where1=%e3%83%90e3%83%b3e3%82%af%e3%83%bc%e3%83%90%e3%83%bc%2c%20e3%82%ab%e3%83%8a%e3%83%80&cp=49.283260345459-123.125411987305&qpv=%e5%9c%b0%e5%9b%b3%e3%80%80e3%83%90e3%83%b3e3%82%af%e3%83%bc%e3%83%90e3%83%bc&FORM=MIRE> (2015/08/27)

2) ミッションステイトメントおよび行動規範 (Values Statement)

フロッグホロウネイバーフッドハウスでは、ミッションステイトメントの他に8項目の行動規範 (Values Statement) を打ち立てている。ミッションステイトメントには、*"Our goal is to enable people to enhance their lives and strengthen their community. Our challenge is to work with our community to develop innovative programs and services that meet the changing needs of a diverse population."* とあり、人々の生活向上を目指した近隣組織を構築することが述べられている。

8項目の行動規範には、多様性、リーダーシップ、イノベーションと創造性、健康的なコミュニティの構築、持続可能性、組織管理、情報開示と説明責任、ボランティアズムが掲げられており、ミッションステイトメントを具体的に実践するための方策について書かれている。この行動規範の中でも「多様性」、「リーダーシップ」、「ボランティアズム」は特に重視されている。「多様性」の項目には、社会の多様性を反映すること、すなわち、多様なニーズを持つ人々を受け入れ、それをサービスやプログラムに反映していく使命があるとしている。次に、「リーダーシップ」では、子ども、若者、大人、高齢者や地域のパートナーが地域社会の中でリーダーシップを発揮できるようリーダーシップをモデル化し開発することや、コミュニティにおける問題解決の指導的役割を担っていること、人々が才能とスキルを共有するための機会を作ることが述べられている。そして、「ボランティアズム」では、コミュニティサービスやプログラムの実施などは有給のスタッフに依存してしまいがちになるが、人々の自発的な行動や意志がダイナミックで健全な社会生活を構築する上で重要な役割を担っていることを認識し、ボランティアの行為 (自由意志に基づく行為) によって、地域社会に住む人々が互いに帰属意識を高めることができると明示している。

3) フロッグホロウネイバーフードハウスが提供しているサービスおよびプログラム

フロッグホロウネイバーフードハウスでは、日常生活を営む上で必要となる32のサービスとプログラムを提供している。サービスとプログラムの詳細については、資料として末尾に添付しておく。なお、サービスとプログラムは、自助グループが担っているものもあり、利用者数の増減や実施内容の検討によって年度を待たずに終了する場合もある。そのため、本稿で取り上げるものに関しては、2015/7/10現在のデータとして提示しておく。

表1 フロッグホロウネイバーフードハウスにて実施されている
コミュニティサービスとプログラムの対象者および総数の内訳

	対 象 者	サービス・ プログラム数
1	乳幼児 (1.5～6歳)	4
2	学齢期の児童・生徒 (5～18歳)	9
3	家族 (子どもがいる家族)	4
4	若者 (16～30歳)	2
5	高齢者 (50歳以上)	5
6	移民者	1
7	全ての人	7
サービス・プログラム総数		32

乳幼児を対象としたサービスやプログラムでは、レジジョエミリアアプローチを取り入れた保育活動が展開されている他、短時間の預かり保育も実施されている。学齢期の児童・生徒を対象としたものには、学童保育や「ユースコネクション」といったカナダの文化や歴史を学びながら英語の習得を目的としたプログラムも展開されている。家族を対象としたものには、日本の子育て支援に該当するプログラムが実施されており、ノーバディズ・パーフェクトプログラムやマザーグースプログラムといった親教育、子育てに関する情報提供がある。若者を対象としたものには、就労支援の照会があり、高齢者を対象としたものには、健康維持のための運動や交流会など定期的にもたれている。表1では、対象者の年齢を示しているが、これは目安として掲げられているものであり、高齢者用のプログラムに若者や移民者が混ざって参加をすることもできるなど、大変柔軟に受け入れがされている。また、夏季シーズン（7～8月）にかけては、Clinton Parkにてファミリードロップインプログラムが実施されているのだが、この時、シニアプログラムの一つである太極拳やヨガ教室を同時に開催し、また、ユースコネクションやB.A.S.Eプログラムに参加をしている10歳～18歳までの若者がボランティアスタッフとして、公園内に、お絵かきコーナーや砂場遊びの道具の設置、子どもの見守り、ワークショップの補助、後片付けの手伝いを担うなど、世代間交流を意図した取り組みがなされている。

IV. 研究方法

本研究では、まず、フロッグホロウネイバーフードハウスが発行している世代間交流プロジェクトの報告書 "*Generation Citizenship Seniors + Youth Toolkit*" とフロッグホロウネイバーフードハウスのホームページ (<http://www.froghollow.bc.ca/>) に掲載されている情報を手掛かりとして、世代間交流プロジェクトの大まかな概要を把握した。その後、ユースサービスコーディネーターA氏と運営責任者であるB氏、参加者である高齢者のC

氏、若者のD氏に対してインタビュー調査を実施した。

表2 調査協力者およびインタビュー日時と時間

調査協力者	役 職 等	年 代	日 時	インタビューの時間
A氏	ユースサービスコーディネーター	30代	2014年9月3日(木)	34分44秒
B氏	インタージェネレーション プログラムコーディネーター	30代	2015年8月13日(木)	1時間2分24秒
C氏	無職	60代	2015年8月19日(水)	15分54秒
D氏	大学生	10代	2015年8月20日(木)	11分17秒

筆者は、2014年8月27日(水)～9月4日(木)までバンクーバー市に滞在した間⁵、バンクーバー市にある9つのネイバーフッドハウスの視察を行った。2014年9月3日(木)にフロッグホロウネイバーフッドハウスを訪問した際、ユースサービスコーディネーターのA氏と世代間交流プロジェクトの実質的運営責任者であるB氏に対し、インタビュー調査を実施した。この時、B氏が多忙であったため、インタビュー調査は、主にA氏を対象として実施した。その後、筆者は2015年8月10日(月)～2015年8月20日(木)に再度バンクーバー市を訪問し、フロッグホロウネイバーフッドハウスのファミリードロップインプログラム⁶に非参与観察者としてフィールドワークを行い、B氏、C氏、D氏へのインタビュー調査を実施した。このファミリードロップインプログラムは、世代間交流プロジェクトと表向きには広報されていないが、子どもとその養育者、若者、高齢者向けのプログラムを同時に開催しており、多世代の出会いと交流を促すことを一つのねらいとしている。

V. 調査結果と考察

1. 世代間交流プロジェクト実施のねらいと目的

フロッグホロウネイバーフッドハウスでは、2011年度～2013年度において、高齢者福祉を促進させる目的として、カナダ政府(カナダ移民局)およびユナイテッドウェイの補助金を獲得することができた。その補助金を活用して、若者(10～30代)と高齢者(50代以上)の世代間ギャップを埋めることを目的とした世代間交流プロジェクトを開始した。ネイバーフッドハウスでは、多世代に渡った異なるサービスやプログラムを展開しているため、施設の利用者同士が挨拶や雑談を交わす場面はいくらでも見かけることができる。しかし、A氏は「利用者の大半は、サービスやプログラムが終了すると帰宅するため、世代間での他者理解を深めることや、相手のために何かをしようと動機づけられる交流が生まれることは困難であった」と述べる。また、B氏は「こんにち、地域を散歩してみれば、私達は親や祖父母、若者、乳幼児に出会う。私達は、異世代が交流できるプロジェクトを通して、各世代がリーダーシップの機会を得ることができ、それらが彼ら自身の自信につながる」と述べている。B氏は、年長者が若年者に物事を教えるだけでなく、私達は互いに学び合うことができる存在であるということを強調していた。

フロッグホロウネイバーフッドハウスにおける世代間交流プロジェクトでは、①世代間のつながりを創ること、

⁵筆者は、2014年8月27日(水)～2014年9月4日(木)まで、カナダのバンクーバー市にあるバンクーバー市ネイバーフッドハウス協会に所属する9ヶ所のネイバーフッドハウスを視察したが、世代間交流プロジェクトに類するものを実施している施設はフロッグホロウネイバーフッドハウスのみであった。

⁶ファミリードロップインプログラムとは、プログラムの事前参加予約などは必要なく、いつ来てもいつ帰ってもいいというものである。日本における子育て広場のようなものである。これは、ネイバーフッドハウスだけでなく、カナダにおける多くの家族支援事業を担っている団体が実施している。

②世代間のつながりを創るためのスキルを向上させること、③コミュニティが抱えるニーズを確認するための手法を養うこと、④コミュニティに変化を与えるプログラムを開発することを目的として実施された。

2. 世代間交流プロジェクトの実際

本プロジェクトの主要メンバーは、18名の若者（30歳以下）と6名の高齢者（50歳以上）の計24名である。主要メンバーは、アウトリーチ活動（Outreach）によって集められた。アウトリーチ活動とは、支援を必要とする人にその支援を届ける出張サービスの意味（福川 2003：146）の他、地域づくり等の過程における専門機関における積極的取組の意味（田中 2009：32）もある。フロッグホロウネイバーフッドハウスでは、Clinton Park、Vancouver Technical Secondary School、Nootka Elementary School等にプログラムコーディネーターやスタッフが出向き、ファミリードロップインプログラム、B.A.S.Eプログラム、セツルメントサービス（ESL、等）といったプログラムを提供している。

2011年度は、若者と高齢者の出会いの場がフロッグホロウネイバーフッドハウスのスタッフによって設定された。そこでは、彼らの共通の話題を作るために小旅行を企画し、バンクーバー市庁舎やフォートラングラー⁷、ビクトリア州にあるBC州議会を巡りながら、カナダの伝統や文化遺産について話し合う機会がもたれた。2012年度からは、主要メンバーを対象として、①コミュニケーションスキルの獲得、②エイジズムへの理解を深める、③アセットマップの作成、④メンターリーダーシップ研修が実施された。①～④の取り組みには、フロッグホロウネイバーフッドハウスのスタッフの他にも、West coastの職員がファシリテーターとして入り、実施された。

表3 世代間交流プロジェクトにおけるメンター育成のための4つのモジュール

	モジュール	内 容
①	他者とのつながりを重視したコミュニケーションスキルの獲得	世代間が持つそれぞれの考え方の違いや、それぞれの世代が持つ課題への相互理解を深めるために、自分自身の人生を語り合う場を設定する。
②	エイジズムへの理解を深める (年齢における固定概念による差別)	エイジズムは、若者や高齢者を問わず、普段の生活において誰もが直面する課題である。エイジズムの構造的な課題について話し合い、エイジズムとは何かについて考える。
③	アセット・マッピング ⁸	アセットマップを作成し、コミュニティが持つ課題を広い視野から見つめる。
④	メンターリーダーシップ研修	市民とは何かをテーマとして、グループワークを円滑に実施するための技術を獲得する。最大20時間以上のリーダーシップトレーニングを実施する。

他者とのつながりを重視したコミュニケーションスキルの獲得では、参加者の一人が、「私たちは何年間もお互いのことを知っていたけれども、私たちは互いの人生について知ることはなかった」(*Generation Citizenship Seniors + Youth Toolkit* (2014)：5)と述べられており、本プロジェクトを通して、互いの生きてきた背景を語り合い、これまで挨拶や雑談を交わす程度の交流の質に何らかの変化があったことがうかがえる。また、エイジズムへの理

⁷フォートラングラーとは、19世紀初頭、イギリスのハドソンベイ社によって開拓が進められ、ゴールドラッシュ時にはプリティッシュ・コロンビア州の中心市街地となった場所である。

⁸アセット・マッピングとは、コミュニティの持つ特性と力をコミュニティの資産（アセット）として、地図やその他の形で可視化（マッピング）する手法のことである。

解を深めるでは、「カナダ・BC州における若者の選挙権は18歳であるが、16歳で付与することについてどう思うか」や「若者の声やアイデアは、いつも真剣に取り上げられるだろうか」、「高齢者は自分達の古いやり方に固執しているのかどうか」といったテーマを取り上げながら、普段の生活の中で人々が持つ偏見を構造的に読み解く話し合いがもたれた。この活動を通して、高齢者の一人は、「古いインドの諺には、もし、あなたが、あなた自身のような年老いた人々と共に時間を過ごすならば、その状況について不満を持つ。けれども、もし、あなたが若者と時間を過ごす場合、それは、あなたを若返らせる」(*"Generation Citizenship Seniors + Youth Toolkit"* (2014) : 5) と述べ、若者を否定的な眼差しで見るのではなく、若者が持つ文化を肯定的に捉える姿勢が示唆される。アセット・マッピングでは、世代間交流プロジェクトの企画案を作成する前段階として、今あるコミュニティニーズを可視化するために作成された。マッピングすることで、コミュニティが抱える課題などに対して、互いの共通認識を得やすくなり、世代間交流プロジェクトの開発にあたって、誰に対し何の目的で実施するのかということが明確になるという効果をもたらした。メンターリーダーシップ研修は若者および高齢者が受講したが、特に10代の若者のファシリテーション技能やコミュニケーション技法を開発することがねらいとされ、2013年度からプロジェクトを実施する際のリーダーとしてのトレーニングを受けた。

2013年度からは、2011～2012年度にメンターリーダーシップ研修を受講した主要メンバーがメンターとなり、2人の若者と1人の高齢者の3人(Working in 3s)が一つのグループとなり、世代間交流プロジェクトの実施運営母体となる15のフォーカスグループを形成した。なお、フロッグホロウネイバーフッドハウスのスタッフは、メンターのサポート役に徹し、指示や指導といったことはしない。

以下の表4は、世代間交流プロジェクトの年度ごとの進捗をまとめたものである。

表4 世代間交流プロジェクトの進捗

年度	世代間交流プロジェクトの実施概要	目 的
2011	①主要メンバーによる小旅行の企画 ②若者と高齢者によるつながりの構築	・ 出会いの場を作る ・ 世代間のつながりの構築
2012	①メンターの育成(4つのモジュールの実施) ②フォーカスグループ(3s)の形成 ③2012年度のまとめ	・ コミュニケーション技法の向上 ・ コミュニティのニーズを探る
2013	①フォーカスグループによる9つのプロジェクトの実施 ②2013年度のまとめ	・ プロジェクトの実施を通して、 コミュニティに変化をもたらす
2014 以降	①フォーカスグループおよび新たに加わったメンバーによるプロジェクトの実施 ②2014年度のまとめ	・ 新たなメンバーを引き入れ、世代間 交流の担い手を増やす

3. フォーカスグループが実施した9つのプロジェクト

1) 9つの世代間交流プロジェクトの概要

以下の表5で示す①旅行、②薬物とアルコールに関するワークショップ、③世代間交流トレーニング、④テクノロジーワークショップ、⑤ポットラック&ピクニックイベント、⑥ストーリーテリング&コミュニティプログラム、⑦バトミントン&フィットネス、⑧ミュージックプロジェクト、⑨クッキングワークショップの9つのプロジェクト開発にあたっては、フロッグホロウネイバーフッドハウスのスタッフが若者や高齢者からの意見を定期的に収集し、それを元にして、プロジェクトとして適しているかどうかスタッフが検討したものである。検討後、フォーカ

スグループを主軸として、アウトリーチ活動や掲示板での広報を通して、参加者が幅広く募集された。

表5 9つの世代間交流プロジェクトの概要

	プロジェクト名	内 容
①	小旅行	若者と高齢者が旅行を通して共通体験をし、その中で市民とは何か、カナダの伝統や文化遺産について話し合う。バンクーバー市庁舎、ビクトリア州、BC州議会、フォートラングレーに向かう。
②	薬物とアルコール依存に関するワークショップ	若者と高齢者が共に薬物やアルコールの乱用について専門家から話を聞き、意識と理解を向上させるための機会を提供することを目的としている。対話を通して、異なる世代のライフスタイルに焦点を当てることができる。
③	世代間交流トレーニング	恒久的・社会的・物理的なつながりを地域社会の中に創るには、世代間の気持ちのつながりを育む必要がある。本プロジェクトでは、市民参加の方法や、全ての年代がくつろげる場の設置の方法、コミュニティメンバーのためのリーダーシップやトレーニングの方策を学ぶ。
④	テクノロジーワークショップ	若者が、高齢者に対して、タブレットや携帯電話（スマートフォン）、電子メール、インターネットの使い方を教える。本ワークショップでは、高齢者がネット端末の使い方を知ることで、公共交通機関の検索方法から、多言語の情報を含むオンラインコミュニティサービスへのアクセスを可能とすること、また、ボランティアの機会を簡単に得る方法などを教示する。冬の期間に実施した。
⑤	ポットラック&ピクニックイベント	参加者が、それぞれの国の料理やレシピを持ち寄るイベントである。夏には、若者と高齢者を招いて、地元の公園に向かい、ピクニックの機会も提供する。
⑥	ストーリーテリング&コミュニティプログラム	本プロジェクトでは、自分が大切にしている物や子ども時代の思い出の品を持ち寄り、グループ内で紹介し合う。自分の物語を共有するといったストーリーテリングイベント（Show & Tell）を実施し、参加者は、互いの相違点と類似点について知ることができるため、強力なつながりを創ることができる。
⑦	バドミントン&フィットネス	フロッグホロウネイバーフッドハウスの世代間交流プロジェクトに参加をしている者達と、レンフリーユコミュニティセンターにおける地元の高齢者バドミントンチームとのリーグ戦を開催した。また、若者と高齢者が一緒に外を歩いたり、ゲームを楽しむ「Walk It Out」を実施した。
⑧	ミュージックプロジェクト	本プロジェクトでは、ファシリテーターの若者と高齢者のグループがデルタ地区の鳥類保護地区を歩き、「自然の音」を録音した。違った鳥の声を録音し、鳥の声をコミュニティに持ち帰って皆で聞いて楽しんだり、その録音から音楽を作成することを試みた。
⑨	クッキングワークショップ	共に食事をすることは、世代間交流や文化交流を自然な形で促進させるための基本となる。自分のレシピを他者と共有することを通して、自分の料理の腕前を上げることができるだけでなく、異文化の多様なレシピを知るための機会となる。

これらのプロジェクトのうち、③世代間交流トレーニング、④テクノロジーワークショップ、⑤ポットラック&ピクニックイベント、⑥ストーリーテリング&コミュニティプログラム、⑦バドミントン&フィットネス、⑨クッキングワークショップは、プロジェクト終了後も継続的に実施されている。それ以外のプロジェクトにおいて、継続的に実施されなかった理由は、以下の通りである。①小旅行では、貸し切りバスやガソリン代等の経費がかかるからである。ネイバーフッドハウスで提供するサービスやプログラムは、誰もが参加できることを原則としている

ため、費用負担を参加者にさせないという方針がある。②薬物とアルコール依存に関するワークショップは、若者が提案をしたものであったが、この企画を実施した当日、参加者が誰も来ない日があった。企画を立てた者同士で参加者がいなかった点が話し合われた結果、個人のプライバシーに関わるような内容であったこと、否定的な意味合いを含んだテーマであることが参加者に受け入れられなかったのではないかと考えらえた。⑧ミュージックプロジェクトは、鳥の声といった自然の音を録音はしたものの、それを組み合わせて音楽を作成するには専門的な技術を要したため、次年度以降の継続はされなかった。以上のように、プロジェクトが継続的に実施されない要因としては、経費負担、テーマ設定（企画内容）、専門性が取り上げられるといえる。

また、本プロジェクトの実施にあたっては、以下の改善点や配慮が取り上げられた。

まず、若者と高齢者の生活時間のタイミングを合わせる難しさである。若者と高齢者の生活時間には、差異がある。若者は、平日の9時～15時まで学校に通っていたり、夕方まで仕事をしていたりするが、高齢者にとってみれば、その時間帯は暇を持て余している。また、多くの高齢者は、家事や孫の世話といった家庭内の仕事を任されていることもあり、夕方からの外出を嫌う。そのため、週末の午後の時間帯を見計らって、プロジェクトを実施する必要があった。B氏は、「世代間交流プロジェクトに取り組む以前から、ネイバーフッドハウスにおける既存のサービスやプログラムを実施する時間帯についても、若者と高齢者が出会う機会の設定については難しい課題だと思ってきた」と述べていた。次に、ボランティアスタッフやメンターに対する配慮である。ミーティングを行うための部屋を無料で貸し出したり、学校帰りにプロジェクトに参加をする若者のためにお菓子を用意したり、プロジェクトリーダーに対して、プロジェクトを実施する際にかかった費用の他、講師料といった謝金の用意もする必要もある。ボランティアといえども、プロジェクト実施の準備などには時間も費用もかかる。たいていの場合、ボランティアをする側は、自発的な活動であるため、かかった費用を請求しない場合が多いが、そうすると費用負担ができる者は良いが、経済的事情で費用負担ができない者は、実質的にボランティアスタッフとなることが難しくなる。そのために謝金が用意されている。

2) 世代間交流プロジェクトの参加者の声

大学生のD氏は、現在19歳であるが、本プロジェクト開始時は15歳であった。3年間の活動に携わり、特に気に入っているプロジェクトは小旅行とピクニック、クッキングワークショップであると述べていた。また、「ワークショップを開催した時に、シニアの人から、こうしたほうが家族が座りやすいと言われて、ベンチの場所をどのように設置すればいいかなんて今まで考えたこともなかった」と述べていた。D氏は、シニア世代から、「些細なことかもしれないが、とても大切なことをたくさん学ぶことができた」という。世代間交流は「高齢者が習得した知恵や英知、ものの考え方や解釈を若い世代に言い伝えること」と定義がされているが、この定義を生活者の視点に落とし込んでみると、まさにD氏が体験した人への気遣いや心配りに対する気付きと学びそのものであると言えるのではないだろうか。

60代のC氏は、バンクーバー市にて会計士を長年務め、3年前にリタイアをした。2年前からフログホロウネイバーフッドハウスにおいて、毎週水曜日の10:00-11:30まで、シニアプログラムのラフターヨガ (laughter Yoga) のファシリテーターをしている。ラフターヨガとは、「笑いヨガ」とも言われ、1995年にインド人医師であるカタリア博士が始めたものである。たとえば「ついつい買い物をしすぎてしまい、レシートを見たら100ドルだった!」という設定をファシリテーターが伝え、レシートを指さし、大きく口を開けてびっくりする表情をするというものを真似するものである。C氏は、世代間交流プロジェクトに参加をしていた際、コミュニティイベントにて

ラフターヨガの講師を務めた。C氏は、「小さな子どもでも、言葉が通じなくても、身体表現活動であるので、見て真似をするだけでいい。こうして違う年齢の人と交流できることは、とても幸せなことだ」と述べていた。C氏は、講師を務めることは自分の楽しみであるとも述べていたが、誰もが楽しめる配慮をしている。ファミリードロップインプログラムに参加をした際、筆者もラフターヨガに参加をしたのだが、「英語か広東語はわかる？」とすぐに聞かれ、初めに丁寧に説明をしてもらった。また、途中から10～13歳の3人が仲間入りをした際、それまでのトピックは「買い物」であったが、すぐに「旅行」に変えて、子ども達も楽しめる内容へと変更していた。こうした配慮ができることは、個人のパーソナリティやそれまでの職務経験等に由来するものが大きいと思われたため、「前職は教員か保育にかかわる仕事をしていたのですか」と尋ねたところ、「いいえ。会計士を長年していたの。人とあまりかかわる仕事ではなかった」という返事が返ってきた。リタイア後、フロッグホロウネイバーフードハウスでシニアプログラムや世代間交流プロジェクトに参加をし、自身もファシリテーターとして活躍することで、他者との関わる能力が磨かれたのではないかと推測された。

VI. おわりに

ネイバーフードハウスには、日常生活に必要なサービスやプログラムが多岐に渡って提供され、日々、さまざまな人、さまざまな世代が施設を訪問する。その中で、多様な世代がそこで出会い、雑談を交わし合う光景を見かけることができるのだが、今回、施設側が世代間交流プロジェクトを実施するにあたって、「交流の質」に着目した点は大変意義深いものであったと思われる。

世代間交流プロジェクトの企画案を立てる前に、若者と高齢者が出会う場面を作るだけでなく、共通の話題をもつために小旅行の企画をし、同じものを見聞きしながら体験したことを語り合う場面設定がもたれた。これは、アイズブレイクとして行う1回きりの企画ではなく、その後も何度も続けて行われており、交流を深める役割を果たしたと考えられる。また、2012年度の1年間を通して、他者とのつながりを重視したコミュニケーションスキルの獲得やエイジズムへの理解を深める、アセット・マッピング、メンターリーダーシップ研修が実施され、世代間交流プロジェクトを開発するための準備の時間が十分に取られていることも評価できる。プロジェクトを実施する場合、事前準備の重要性は理解されているものの、実際にプロジェクトを実施してから、問題点を考えるということもよく見られる。それはそれで、具体的な問題点を発見することができるというメリットがあるが、時間的制約がある時には対処療法的措置が取られてしまい、プロジェクトを上手く実施できれば良しとしようとする考えが働き、結果として、プロジェクトチームが作業チームのようになることも否めない。

フロッグホロウネイバーフードハウスにおいて、世代間交流プロジェクト実施の準備期間に2年近くの年月をかけることができた背景には、47年間にもおよぶ地域住民の生活の質を向上させるためのサービスやプログラム提供・運営の経験と技術があったこと、本施設が掲げるミッションステイトメントや行動規範（Values Statement）が形骸化されることなく、理念をいかに体现するかについて常に話し合いができる環境があることが大きく影響していると考えられる。世代間交流プロジェクトが一過性のイベントのように取り扱われるのではなく、あくまでも日常生活の延長線上に世代間交流プロジェクトの開発があり、2014年3月に助成金が終了した現在も新しいメンバーを増やしながら引き続き実施されていることは、大変興味深いものである。また、B氏は、世代間交流プロジェクト実施後、Wisdom Exchangeプログラムを計画し、実施しはじめた。B氏は、「この地域に住んでいる高齢者の場合、正規の学校教育を受けていないといえますが、高齢者の皆さんは学校教育からは学べない知識やスキルを多く有しているだろうし、異なる世代間でそういった知恵を共有できると考えられる。若者はコンピューターのスキルを教

え、高齢者は育児やガーデニング、料理といったスキルを教えるという互いの知恵を交換することができる。今後もしも若者と高齢者を対象とした知恵の交換は続けていきます」と述べていた。補助金の交付が終わると実施してきた事業も終わることが多い中、プログラムの改善点を新たなプログラムの計画へと活かし、さらに実施していることに対してスタッフの力量がうかがえた。

最後に、資料によると、若者の参加者が10代～30代以下と書かれていたため、子育て世代の参加があったかどうかB氏に尋ねると、「参加をしていたかもしれないし、していないかもしれない」という返答であった。詳しく聞くと、たとえば、ポットラック&ピクニックイベントやコミュニティプログラム等は、「世代間交流プロジェクト」という名で広報をしていないため、複数の子育て世代の参加はあったものの把握はしていないということであった。フロッグホロウネイバーフッドハウスにおける若者と高齢者を軸とした世代間交流プロジェクトの取り組みをめぐっては、結果的に多世代も巻き込む形で実施されてきたことが明らかとなったが、今後は、世代間交流プロジェクトの参加者にどのような影響・効果があったか、さらなる調査を進めたい。

本研究は、平成27年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究B）「カナダ多世代間交流の子育て支援をめぐる場作りの研究－ネイバーフッドハウスの事例－」（研究課題番号：15K17241）の一部として行った。

（引用・参考文献）

- カナダの子育て家庭支援研究会「人権尊重と相互扶助の市民意識に根ざしたカナダの子育て家庭支援システムの研究」子ども家庭リソースセンター発行、2001年、p4
- 草野篤子「日本における世代間交流の歩みと今後の展望」『社会教育』第61巻、第717号、2006年、pp.8-11、
- 草野篤子・金田利子・間野百子・柿沼幸雄編著『世代間交流効果』三学出版、2009年、pp.9-17
- 草野篤子・柿沼幸雄・金田利子・藤原佳典・間野百子『世代間交流学の創造』あけび書房、2010年
- 草野篤子・溝邊和成・内田勇人・安永正史・山之口俊子編著『人を結び、未来を拓く世代間交流』三学出版、2015年
- 倉岡正孝編著、草野篤子・藤原佳典・村山陽著『地域を元気にする世代間交流』遊行社、2013年
- 田中秀樹「アウトリーチ～その理論と実践例～」『コミュニティソーシャルワーク』第3号、pp.32-41
- 土永典明・岡崎利治「世代間交流に関する調査研究：高齢者福祉関係施設を併設している保育所の側面から」九州保健福祉大学研究紀要6、2005年、pp.27-34
- 西内潔「わが国のセトルメントの現状分析と将来性」『社会事業』第36巻第2、3号、全社協、1953年、p.91
- 広井良典『持続可能な福祉社会－「もうひとつの日本」の構想』ちくま新書、2006年
- 福川須美「カナダ－高い人権意識を持つ国」汐見稔幸『世界に学ぼう！子育て支援』フレーベル館、2006年、p.149
- 中井孝章編著、川口良仁・小伊藤亜希子著『街づくりと多世代交流』大阪公立大学共同出版会、2008年、pp.4-5
- Cavers, V. with Carr, P. and Sandercock, L. (2007). "How Strangers Become Neighbours: Construction Citizenship Through Neighbourhood Community Development", Metropolis British Columbia Working Paper Series No.07-11
- Newman, S, (1997) "History and Evolution of Intergenerational Programs: Past, Present, and Future." Taylor Francis, p.57
- Newman, S, & Sanches, M. (eds) (2002) "Journal of Intergenerational Relationships" Vol.7, No.1

- Putnam, R.D. (2000) "Bowling alone: The collapse and revival of American community." New York: Simon & Schuster. (柴内康文 (訳) (2006) 『孤独なボウリング：米国コミュニティの崩壊と再生』 柏書房)
- Sandercock, L. (2003). "*Cosmopolis II: Mongrel Cities in the 21st Century.*", Great Britain: MPG Books Ltd.
- S. R. Lauer, M. C. Yan (2010) "*Voluntary Association Involvement and Immigrant Network Diversity*", Journal Compilation, IOM (International Organization Migration), Vol.51, Issue3, pp133-150
- M. C. Yan (2004). "*Bridging the Fragmented Community: Revitalizing Settlement Houses in the Global Era*", Journal of Community Practice, 12 (1/2) p.51-69
- M. C. Yan, Sean Lauer (2008) "*Social Capital and Ethno-Cultural Diverse Immigrants: A Canadian Study on Settlement House and Social Integration*" Journal of Ethnic & Cultural Diversity in Social Work, Vol.17, Issue3, pp.229-250

(参考資料)

- Frog Hollow Neighbourhood House (2014) "*Generation Citizenship Seniors + Youth Toolkit*": http://www.froghollow.bc.ca/uploads/GeneratingCitizenship_toolkit.pdf(2015/7/30)
- Frog Hollow Neighbourhood House HP: <http://froghollow.bc.ca/> (2015/7/30)
- Association of Neighbourhood Houses, "*Association of neighbourhood houses vancouver present and past – A report on the History and the role of Neighbourhood Houses, and background information on the Association of Neighbourhood Houses of Greater Vancouver –*", Association of Neighbourhood House of Greater Vancouver (年号およびページ数がない)

(資料) フロッグホロウネイバーフッドハウスにおけるサービスおよびプログラム概要

	プログラム	対象者 (年齢)	運営日時	サービスおよびプログラム内容	料金
1	乳幼児保育 (<i>Satellite Daycare Toddler Program</i>)	1.5～3	月～金曜 7:30-17:30	子ども達の身体的、知性的、社会的、情緒的、そして創造性を育む活動を実施している。子ども達の芸術活動やプロジェクト、保育活動は、記録され、保護者に提示される。また、月50ドルで1時間の延長保育が利用できる。	1日8時間 ①週2日 560ドル ②週3日 790ドル ③1ヶ月 1170ドル
2	幼児保育 (<i>Satellite Daycare- 3～5 Program</i>)	3～5	月～金曜 7:30-17:30	子ども達の身体的、知性的、社会的、情緒的、そして創造性を育む活動を実施している。子ども達の芸術活動やプロジェクト、保育活動は、記録され、保護者に提示される。また、月50ドルで1時間の延長保育が利用できる。	1日8時間 ①週3日 425ドル ②週3日 590ドル ③1ヶ月 830ドル
3	幼児教室(幼稚園) (<i>PreSchool</i>)	3～5	①火/木曜 9:00-12:00 ②月/水/金曜 9:00-12:30 ③月～金曜 9:15-13:15	保育活動には、レッジョエミリアアプローチを取り入れている。幼児教育の専門資格を有する者が保育にあたり、温かくて楽しい雰囲気の中で子どもの成長を見守る。夏期保育も実施している。	①200ドル ②300ドル ③425ドル
4	預かり保育 (<i>Kindercare</i>)	5～6	①月～金曜 14:30-18:00 ②月～金曜 7:30-9:30, 14:30-18:00	レッジョエミリアアプローチを土台として、創作活動、砂・水遊び、料理、科学遊び、絵本の読み聞かせ、グループワーク、散歩、スペシャルイベントを実施している。イメージントカリキュラムに則り、子どもの興味関心に基づいた保育活動を実施する。おやつのある時間もある。春・夏・冬休みの預かり保育は、月～金曜日(7:45-17:45)に実施している。	①370ドル ②400ドル
5	キッズワールド (学齢期ケア) (<i>Kids World School Age Care</i>)	5～12	①週2日 7:30-9:00 ②週2日 7:30-9:00, 15:00-18:00 ③週3日 7:30-9:00 ④週3日 7:30-9:00, 15:00-18:00 ⑤月～金曜 15:00-18:00 ⑥月～金曜 7:30-9:00, 15:00-18:00	学校の一日の始めと終わりに子ども達が集い、指導員にサポートされた空間の中で、子ども達同士が対話をしながら関わりを持つプログラム。レッジョエミリアアプローチを土台として、創作活動、キッズラウンジ、ドラマセンター、ゲームエリア、ホームワークセクション、図書館活動を実施している。	①188ドル ②196ドル ③246ドル ④258ドル ⑤320ドル ⑥340ドル

6	ヌトカ学齢期 ケアプログラム (<i>Nootka School Age Care</i>)	5~12	①週2日 7:30-9:00 ②週2日 7:30-9:00, 15:00-18:00 ③週3日 7:30-9:00 ④週3日 7:30-9:00, 15:00-18:00 ⑤月~金曜 15:00-18:00 ⑥月~金曜 7:30-9:00, 15:00-18:00	ヌトカ学齢期ケアプログラム（子どもの遊び場プログラム）を取り入れている。定員40名。預かり保育（Kindercare）と同時に使うと1日20ドルの追加料金がかかる。	①188ドル ②196ドル ③246ドル ④258ドル ⑤320ドル ⑥340ドル
7	プレティーン プログラム (<i>Pre-Teen Program</i>)	10~14	①水曜 15:30-18:00 ②木曜 15:30-18:00 ③金曜 15:30-19:00	思春期の児童・生徒を中心として、彼らの発達段階に合わせたプログラムの提供やワークショップを実施している。インターネット、ビデオゲーム、ホームワーク支援、ボランティアの機会の提供、アウトドア、小旅行などのプログラムを実施している。	無料
8	ユースコネクション (<i>Youth Connections</i>)	10~14 (10~18)	月/水/金曜 15:30-18:00	カナダ文化や地域社会について学び、特に英語の習得に力を入れている。5年程度の期間を設けて実施している。	無料
9	世代間交流 プログラム (<i>Generating Citizenship- Intergenerational Program</i>)	13~18	掲示版および チラシによる 告知	世代間交流プログラムは、Citizenship and Immigrationの基金によって、3年間実施されたものをベースとして取り組まれている。参加者は、10~30歳程度、50歳以上の高齢者であるが、本プログラムは、ユース向けに実施される。	無料
10	B A S Eプログラム (<i>B.A.S.E. Building A Safer Environment</i>)	13~18	火~木曜日 昼休み	小学校から中学校、高校へと進級することは、困難や怖さを感じることもあるといえる。年間を通して、ワークショップやイベントを実施し、いじめや嫌がらせ、差別に対する学びを深める。バンクーバーテクニカル高等学校（Vancouver Technical Secondary School）にて実施している。	無料
11	奨学金プログラム (<i>Scholarship & Bursary</i>)	13~18	10~3月 週3日	大学や短期大学の入学資金や授業料のための奨学金プログラム。奨学金給付を望む生徒（グレード12=高校3年生）は、バンクーバーテクニカル高等学校（Vancouver Technical Secondary School）にて、10~3月までの間、週3日のプログラムに参加をする必要がある。プログラム内容には、タイムマネジメント、キャリアや個人計画の立案、ストレスマネジメント、ポートフォリオの作成、学術や雇用のための履歴書作成等の指導がある。	無料

12	YACプログラム (Y.A.C Youth Advisory Committee)	13~18	月~金曜日 常時募集	若者が長期的にボランティア活動に関わりを持てるようにするために、団体の運営手法、資金取得の方法等のスキルを指導する。バンクーバーテクニカル高等学校 (Vancouver Technical Secondary School) にて実施している。	無料
13	ユーススキルズ ボランティア ディベロップメント (Youth Skills Volunteer Development)	13~18	7~8月 ①月/水曜 17:30-19:30 ②10-12月 火/水曜の夜 ③2-4月 火/水曜の夜	青少年のために、ボランティアの機会を与え、実務スキルを磨くためのプログラムを実施している。バンクーバーテクニカル高等学校 (Vancouver Technical Secondary School) とノートルダム中学校にて実施している。	無料
14	子どものための コミュニティ アクション プログラム (CAPA Community Action Program for Children)	0~6歳 までの 子どもを 持つ家族	プログラムに より、日時が 違う	子育て支援プログラム。ファミリードロップインプログラム、親教育、ペアレントグループ、子育てに関する情報提供を実施している。他のネイバーフッドハウスや地域団体とも連携を取り、家族やスタッフは月1回集まって、FAST委員会 (Family and Staff Team) を開催している。プログラム参加者は、温かいランチ提供やベビーシッター (無料) が利用できる。	無料
15	ファミリー ドロップインと リソースプログラム (Family Drop-in & Resource Programs)	0~6歳 までの 子どもを 持つ家族	火~木曜 9:30-11:30	子どものための創作活動や親子遊びなどを実施している。	無料
16	子どもの発達に 関するプログラム (Early Childhood Development)	乳幼児の 子どもと その養育 者	10/1~12/10の 月曜 9:30-11:15	芸術活動や童謡、教育的なゲームなどを通して、子どもの言語能力を高め、心身の発達を促すためのプログラムと養育者のための親教育プログラムを実施している。 例) マザーゲースプログラム (広東語)	無料
17	親支援 (Parenting Support and Development)	養育者	掲示版および チラシによる 告知	①ノーバディズパーフェクトプログラム ②祖父母世代における孫育て教育 このプログラムでは、祖父母世代をサポートし、自分の孫との関わり方を学ぶ。参加者は、自分たちの生活を豊かにするためのスキルを学び、他の祖父母とつながることが期待される。	無料
18	若年者雇用サービス (Youth Employment Services)	16~30	月~金曜 10:00~16:30	若年者雇用サービス (Drive Youth Employment Services (D-YES)) の照会をしている。若年者雇用サービスでは、履歴書作成、求人情報検索、雇用に関するプログラムを実施している。WorkBCの一部であり、BCバンクーバーノースイースト雇用サービスセンターのサテライトオフィスである。Location: 2106 Commercial Drive Vancouver, BC V5N 4B4	無料

19	フレームスフィルム プロジェクト (<i>Frames Film Project</i>)	16~30	掲示版および チラシによる 告知	若者が映画の撮影方法を学ぶだけでなく、 社会で必要とされるスキル（コミュニケーション能力開発など）を12週間のプログラムで身に付ける。15~20人の参加者に3人のメンターと2名のスタッフで運営される。フロッグホロウネイバーフードハウスは、本プロジェクトに協力をしている。	無料
20	シニアプログラム (知恵の和) (<i>Wisdom Exchange Seniors Program</i>)	50~	掲示版および チラシによる 告知	ヘルシーエイジング、自立生活、家族生活、 市民教育の4つのテーマに基づいて実施している。高齢者と若者の相互理解のために、 共同ワークショップを開催し、世代間交流も深める。	無料
21	キンホングループ (<i>Kin-Hon Companionship Group</i>)	50~	月曜 12:30-14:00	広東語や北京語を話すコミュニティのメン バーが集い、ランチを食べたり、ビンゴゲームをしながら交流する会を実施している。 ドロップインも歓迎され、50歳以上問わずに参加ができる。	無料
22	太極拳 (<i>Morning Tai Chi</i>)	50~	月~木曜 8:00-9:15	太極拳は、誰でも簡単に挑戦することができ、 健康維持のための運動として取り組まれている。	年間5ドル
23	ロッククワン グループ (<i>Lok-Kwan Companionship Group</i>)	50~	火曜 12:30-14:00	広東語や北京語を話すコミュニティのメン バーが集い、ランチを食べたり、ビンゴゲームをしながら交流する会を実施している。 ドロップインも歓迎され、50歳以上問わずに参加ができる。	無料
24	フロッグホッパーズ グループ (<i>Frog-Hoppers Companionship Group</i>)	50~	木曜 12:30-15:00	英語での会話をし、ランチを食べたり、ゲームをして過ごす。年に数回、小旅行の企画がある。	無料
25	永住者や ニューカマーの ためのプログラム (<i>Free Programs for Pemanent Residents and New Canadians</i>)	永住者や ニューカ マー	掲示版および チラシによる 告知	①セツルメントプラン ②永住権取得更新 ③市民権取得 ④キャリアプランニング ⑤公営住宅の申請および住宅助成金申請 ⑥確定申告や税金に関する申請 ⑦医療に関する申請 ⑧無料の英語プログラム など	無料
26	母国語による プログラム (<i>Programs in First Languages</i>)	全ての人	プログラムに よって違う	母国語での遊びや子どものための絵本の読 み聞かせ、親睦を深めるためのゲーム、ス ナックタイムを展開している。現在、広東 語、日本語、中国語、スペイン語でのプロ グラムを実施している。	無料
27	ガーデニング (<i>Love to garden</i>)	全ての人	水曜 10:00-11:30	季節に応じた草花や野菜を育てるプログラ ム。1st AvenueとSlocan Streetに位置する Clinton Parkにて、実施している。	

28	コンピューター レッスン (<i>Computer lessons</i>)	全ての人	月曜 朝と夕方	インターネットの使い方や情報の検索方法、 メールの使い方を教えている。	無料
29	コミュニテイ サービス (<i>Community Services</i>)	全ての人	掲示版および チラシによる 告知	定期的にワークショップやイベントを実施 している。各種イベントは、カレンダーに て掲示される。 ①スペシャルイベント 家族支援プログラムでは、旧正月のお祝 いや地域保健フェア、収穫祭、インフルエ ンザの予防接種、ブレックファーストウイ ズサンタなどのイベントを実施している。 ②フードセキュリティプログラム 安全な食品を選ぶことがなぜ重要なのか 等、話し合いの機会を持つ。また、野菜を 育てたり、料理のスキルを向上させる中で、 食に関する問題について学ぶ。 ③フードエイド 十分な食料と栄養補給に苦勞している家 族を対象として、無料または低コストの食 品に関する情報を提供する。	無料
30	コミュニテイ プロジェクト (<i>Community Projects</i>)	全ての人	掲示版および チラシによる 告知	コミュニテイメンバーが家族のように集い、 一人一人が持つ才能を積極的に発揮するこ とができれば、社会がより健康で活気に満 ち溢れるとの考えから、住民参加ができる 居場所づくりを実施している。 ①世代間交流プロジェクト ②子育て支援プロジェクト ③家族交流プログラム ④Compassion in Action	無料
31	フリー インターネット	全ての人	開館時間内	無料でインターネットを使用できる。	無料
32	貸教室	全ての人	開館時間内	予約をすれば、誰でも部屋を無料で利用で きる。	無料

※本サービスおよびプログラム実施状況は、2015/7/10現在のものである。